

1. 概要 (アテンダー:大矢、加藤)

- * 開催日: 2022 (R4) 11.16(水) 14:00~16:00 晴れ
- * 参加者: 経済労働局 中山部長、sankan 大矢、加藤、水谷、國、佐藤、鈴木、内山、野中、山部、西山 以上 11名

2. 主な行程

13:55 川崎駅日航ホテル前→マイクロバスで移動→14:30 着 現場事務所
12:30 現場見学 16:30 終了→バスで移動→17:00 三ツバシ前前で解散

3. トピックス

(1) 東扇島へ移動するマイクロバスの中で鈴木様からガイダンスをきいていると現地に到着しました。下りて振り返ると陸側の橋脚が見渡せます。(写真-1)

(2) 現場事務所の展示室には木製の美しい橋梁模型が中央にあって(写真-2)、壁がわにはケーブルのモデルやアンカーボルトなど鋼鉄の部品サンプルがずっしりと並んでいました。

ここで VR ゴーグルによる工事の進行の工程を観ました。(写真-3)

(3) 京浜運河の幅は 600m ほどですが、その兩岸を跨ぐ主塔の間隔(支間長)は 525m で、船の航行幅 400m を確保します。そこを通る桁下は 47m、その主塔の高さは 98.5m になるそうです。

同じ斜張橋でも つばさ橋は高くて 183m と二倍もあります。ここは羽田空港が近いので高さ制限(約 102m) で低くしなければなりません。

ケーブルの角度にも影響します。引っ張るのは 45 度が理想とのこと、しかも見栄えもよいのですが、30 度ぐらいでしょうか。(次頁図参照)

角度がゆるいと牽引するのも大きな力が必要です。それでうんと強いケーブルで引っ張るのだそうです。ケーブルの中が分かるような見本がありました。(写真-4)

(写真 5) は MP2 橋脚塔です。その上の細いのが仮柱のピロン柱(pylon)、そこから何十本ものケーブルを使って MP3 橋脚の応力調整をしながら本ケーブルを張っていくのだそうです。MP3 が完成するとピロン柱は解体されます。いまのところ MP3 は基礎の段階です。(写真 6)

京浜運河に架けるには空にも海底にも、いろんな課題があるので工法や段取りの話を聞くと驚きました。



写真 1 東扇島の橋脚



写真 2 展示室で



写真 3 VR (Virtual Reality) ゴーグル



写真 4 ケーブルの中のような



写真 5 MP2 橋脚とその上にクレーンが作業しているのがピロン柱



写真 6 橋脚 MP3 の基礎 写真奥が水江町側です

(4)MP2 橋脚に上がりました。45M の高さです。 腰には安全带、そしてヘルメットをつけてエレベータで上がります。(写真 7、8) コトコト、コトコト、まるでテーマパークのよう!? いやホンモノです。

上がると周りにはなんの障害物もなく見晴らしは抜群でした。
 天気に恵まれて 360 度が見渡せました。川崎駅も工事中の市役所もスカイツリーも東京タワーも、房総半島もよく見えました。
 直下には紺青の京浜運河と行く船々、そして旅客機が真上を過ぎて行く、まるで関東の真ん中にいるようです。

風もないので、しばらく川崎港の景観に浸っていました。私が川崎に住み始めたのは 50 年前、その頃の臨海部には想像できなかった空気が運河を抜けて広がっていると思いました。

この橋は令和 10 年 3 月に竣工予定だそうです。
 今日の見学者はおもに工場夜景ナビゲータです。みんな写真を撮りました。(写真-9) こうして上から望んだ絶景をみなさんにどうつなげてくれるのか、とても楽しみです。

すっかり陽が沈んできました。
 赤い夕日に工事柵で休むカモメが馴染みます。(写真-10)

国土交通省 京浜港湾事務所／鈴木様をはじめ案内をいただいた皆様方に厚くお礼を申し上げます。
 ありがとうございました。

以前に水江町側の工事を見学しました。
 2017.9.25(会員:16名)、そのあと2018.9.11(一般参加:17名)で見学しています。
 このときは橋梁基礎のケーソンが主体でした。ニューマチック工法で極めて精度の高い管理をしながらケーソンを沈ませるという縁の下の力持ちの仕事。ときが経った今日は上に立つ主塔の見学でした。
 (これら2回の記録は根岸さんレポート/PDFに詳しく。パソコンに残してあれば、ぜひご参考に)



写真7 安全带とヘルメットを装備して



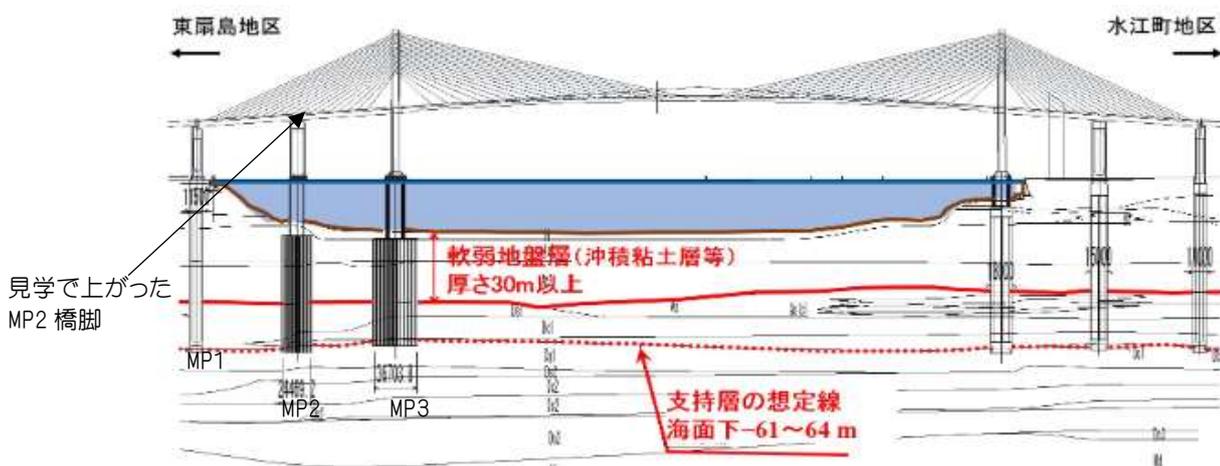
写真8 5人づつがエレベータで



写真9 橋脚 MP2 を背景に



写真10 夕日にカモメ



(西山記)